

Rotary



OKAYA

岡谷ロータリークラブ

- 会長／牛山幸一
- 副会長／梅垣和彦・林広一郎
- 幹事／中嶋孝一
- R 情報(会報)委員長／濱 毅

- 事務所／岡谷市中央町 1-4-1 ・ Tel/0266-22-6939 ・ Fax/0266-23-6939  
URL: okayarc.org ・ Email: okayarc@bz04.plala.or.jp
- 例会／毎週火曜日 PM12:30 ホテル岡谷

## 第 2791 回例会 2017 年（平成 29 年）4 月 18 日(火)

点 鐘：牛山幸一 司 会：平沢清文  
斉 唱：それこそロータリー ラッキーNo：NO.5 北澤洋之介  
礼状：比国育英会バキオ基金 寄付 宮坂宥洪

### 会長挨拶

熊本地震から1年が経ちました。震度7を2回観測し、225人の犠牲者を出しました。いまだ、4万7千人以上の方が仮設住宅での暮らしを余儀なくされています。安部首相は「復興を実現するため、政府一丸となって全力で取り組んでいく」と強調しています。

先日、大臣が記者とのやり取りの中で、福島自主避難は自己責任と述べ、後に謝罪していました。今避難している子供たちに、避難先で原発いじめがおきています。誰も好きで自分の故郷を離れているわけではありません。国のトップにいる人々は、もう少し避難者側にたった発言をしていただきたいと思います。

### 会長報告

- 過日、望月直前ガバナーよりガバナーノミニ決定の連絡がありましたのでご報告します。 駒ヶ根クラブ 伊藤雅基様
- 会員の方より事務局員の心当たりがあると連絡がありましたので、進めていきます。よろしく願います。

### 幹事報告

- 4/25.5/2の例会はありません。次回は5/9の清掃例会となります。
- 各テーブルに「ひろくんに心臓移植を」のチラシを置いてあります。土浦南RCメンバーのお孫さんだそうです。クラブとしては対応しませんので、募金される方は個人で願います。
- 5/24の富岡RCとの再調印式に予定変更等で出席できる方は事務局まで申し出てください。

## 委員会報告

**社会奉仕委員会** 次回 5/9 の例会は清掃例会を行います。例会、食事後にホテル岡谷から岡谷駅周辺の清掃活動を行います。ロータリージャンパーを着用して下さい。また、5/28 は諏訪湖周一斉清掃が行われます。ご協力をお願いします。

**職業奉仕委員会** 5/9 の健康診断に受診希望の方は今週中に事務局まで申し出て下さい。奥様も受診も出来ます。

**親睦委員会** 5/16 は親睦ゴルフコンペと夜間例会となります。また、今年のバスハイクは山梨方面で企画していますので、多くの方のご参加をお願いします。(詳細・ご案内は後日)



### 卓話「岡谷消防署とロータリー号」

岡谷消防署  
署長 大下彰一様

以前、消防の歴史と岡谷消防署の歴史をまとめる機会があり、本日はその時に「へーそうだったんだ」と驚いた、皆様方にいただいたご支援の話をしたいと思い、雑学的に日本消防制度の生い立ちから、思いつくまま、お話をさせていただきたいと思えます。

はじめに、わが国の消防制度の歴史について、お話いたします。

わが国におきまして、著しく消防制度が発達したのは江戸時代です。現在の消防組織のように、体系的な組織を形成し火災防御にあたったのが江戸幕府であり、江戸城及び城下を火災から護る目的のもと発展をしていきました。

慶安元年(1648年)12月21日三代将軍家光が『火災予防に関する町触れ』を公布するとともに同3年(1650年)6月に常備の火消し役を設置し、これを「定火消し」とし、その任務を旗本に負わせていました。これが現代の常備消防の元祖とされています。

一方、現代の消防団にあたる、義勇消防は、町火消しとして、1600年頃から散発的にありましたが、これを一大組織としたのが、皆様も馴染みの深い、大岡越前の守忠相であります。享保元年(1716年)5月、八代将軍となった吉宗が大岡越前の守に命じ、世に有名な「いろは四十八組」が誕生したわけです。当初組員は、町内の住人に義務付けられていましたが、慣れぬ消火活動により命を落とすものが多数、出たり商工業の発展により、その都度、駆り出されるのが苦痛となってきたことから、次第に町内の費用で火消し人足を雇うようになり、そして、天明7年(1787年)2月には、いつしか町火消しは全て、鳶職人となったのです。

消防組織が発達した江戸時代から、明治時代へと移ります。明治の消防制度は、江戸時代の消防制度がほとんど引き継がれましたが、組織の改変が繰り返し行なわれるとともに、名称も「消防組」へと変わりました。既に、お気づきの皆さんもおいでと思いますが、実は私が今までお話した消防組織は、江戸城を中心とする江戸

の町での話です。地方はどうであったかと言いますと、全くばらばら、江戸並みの組織を供えた地方もありましたが、火災が起きると、村人が駆けつけて消火する「駆けつけ消防」程度を行なっている集落が大半でした。時の明治政府は「これでいかん、国益が大きく損なわれる」と、明治 27 年(1894 年)2 月 9 日勅令第 15 号「消防組規則」を全国に公布し、全国的に統一した消防組織づくりに乗り出しました。これが大きな特徴であります。

時代は大正・昭和へと移ります。大正時代の終わり頃から、昭和の初期そして戦争へ一直線になだれ込んだ時代は、本当に暗い世相であったようです。大正 11 年の相場師石井定七商店の破産事件は、融資先の住友銀行に大打撃を与え、これが引き金となり全国の中小銀行の信用にも深刻な影響を及ぼし、至るところで取付け騒ぎが起きました。

また翌年発生しました「関東大震災」により、復興のため振り出された手形処理の問題から、昭和 2 年 3 月に大恐慌となり、わが国全土を襲ったのでした。翌々昭和 4 年(1929 年)10 月には、ニューヨークウォール街の株大暴落から始まった世界恐慌の波は日本にも押し寄せ、経済の建て直しの暇を与えぬ、まさにダブルパンチでした。さらに、皮肉なことに全国的に穀物が大豊作で有りました。しかし豊作がゆえ、特に米価は下落の一途をたどり深刻な豊作飢饉にさらされることとなり、国内には失業者が溢れ、農村では「娘の身売り」が横行する、本当に暗い世相と言わざるを得ない状況でありました。

そんな国内情勢の中、中国大陸において満州事変が勃発し国民に大きな衝撃を与え、そして国連から脱退、さらに昭和 12 年 7 月北京郊外の盧溝橋において、日中両軍の衝突から支那事変が勃発、長期化する戦況とともにドイツの拡大政策に同調し、南方膨張政策を進めた日本軍とアメリカの不和から、真珠湾攻撃を合図に、太平洋戦争へと突入したのでした。

戦争そのものについては割愛しますが、航空機の発達により日本国土が戦場となるのは必至で、あったため、政府は軍と国民が一体となった防空体制確立を目指しますが、この時、国内には先に触れました、「消防組」に加え、昭和 5 年に発足した市民による自衛組織「防護団」が存在していました。業務の重複や指揮系統の交錯は実践活動に支障をきたす恐れがあることから、政府は昭和 14 年 1 月 25 日勅令第 20 号をもって「警防団令」を公布しました。これにより、明治 27 年以降の消防組の名称は廃止されたのでした。この「警防団」は強力な民間防空群の主軸として、本土を戦火から護ることを主任務として活動しました。長野県においては昭和 14 年 4 月 1 日現在で 385 団、団員数 10 万 4242 人を数えました。

さて、昭和 20 年 8 月 15 日戦争終結の詔書の発布をもって終戦を迎えました。戦争の終結、敗戦により、わが国は皆さんもご承知のようにあらゆる制度が大きく変えられ、現代日本に続きます。

消防制度も米国調査団、また連合軍総司令部により、従来と全く違う組織を迫られ、現行私たちが実施している近代消防制度へと生まれ変わったのであります。憲法の改正をはじめとする数々の国内諸制度の変革の中で「警察制度の民主化、地方分権」は特に重要事項で従来、警察権に属していた消防についても大きく改革されました。

昭和 22 年 12 月 23 日法律第 226 号「消防組織法」が公布され、翌年 3 月 7 日施行

され、ようやく消防は警察から独立し、現在の自治体消防の道を歩みだしたのです。消防組織法から遅れること、5ヵ月後の7月24日消防の実体法である「消防法」が公布され、8月1日施行されました。5ヶ月遅れたのは、新しい消防のあり方の基本は予防消防とされたため、火災予防の遂行にあたって消防に様々な権限が付与される必要があったことから、審議に時間を要したためでありました。

いずれにしても、現在の「諏訪広域消防本部岡谷消防署」や岡谷市消防団も全て、この消防組織法により、設置されているものです。敗戦国である日本を植民地化せず、民主主義をもって近代国家とする方針を決定したアメリカの真の目的は、私にはわかりませんが、良くも悪くも消防は権力的、威圧的でなく国民に頼りにされる組織として進める形であったことに心から、良かったと思っています。

さて、冒頭にもお話した、皆様と岡谷消防署の話ですが、昭和38年、救急業務は正式に消防機関が行なうことが法制化されました。同年2月23日岡谷消防署に救急車第1号が誕生し、入魂式が行なわれました。当時は消防署のポンプ車は「富士号」「天龍号」などと命名され運用されていましたが、岡谷消防署救急車第1号は「岡谷ロータリー号」と命名されました。命名の由来を改めて言うまでも無く、岡谷ロータリークラブからの寄贈でありました。私がまだ幼かった頃、ウルトラマンに時々出てきた、丸目で全体的に丸みがあった、バンタイプの救急車です。車種はクラウンでしょうか??外車ではないと思います。それから、4年後の昭和42年5月16日なんと「岡谷ロータリー2号」が再び寄贈され、今ほど救急業務が認知されていなかったこの田舎の消防署に2台の救急車が配備されていたことは、本当に驚きです。さらに、昭和49年10月8日には、岡谷ロータリークラブ創立15周年記念事業として、「岡谷ロータリー3号」が配属されました。岡谷ロータリー3号車は、今と同じワンボックスタイプで、広い患者室と救急隊員の活動しやすさが考慮された最新式の救急車でした。時の会長から『救急活動に役立ててください、でもなるべく使わずに済むことを念じます。』と岡谷市の安寧を祈る言葉とともに贈られた記録が残されています。

振り返ってみますと、岡谷消防署救急業務の事業主は「岡谷ロータリークラブ」様ですか、と言われるくらい高額な機材を投じていただき、それは全て岡谷市民の皆様の安全・安心な暮らしの確保に役立てられました。すごい救急車があるから救急隊の士気も上がり、知識技術の積極的な習得にいそしめた。環境に恵まれた岡谷消防署は、早くから救急活動において、諏訪圏域の消防署からも一生懸命やる署だと、一目も二目も置かれてきました。

ロータリー1号の寄贈を受けました、昭和38年の岡谷市内における救急件数は120件。2代目のロータリー号昭和42年は225件。そして3代目の昭和49年は396件と、高度経済成長とともに右肩上がりに増えていきました。もともとは、高度経済成長により国民の所得が増え、マイカーの所有が増えるとともに、交通事故も増え、第1次交通戦争時代を迎え、国内至るところで交通事故が発生します。事故による負傷者を誰が搬送するのかが大問題となり、国民の声に応える形で、救急業務は消防が行なうこととなったわけですが、この他にも、フル稼働する工場における労働災害事故によるケガ人、そして、当時の消防法には想定されていなかった、一般家庭からの急病人の搬送。実は、消防署の救急車が一般家庭での急病人の搬送を、正式に法制化したのは、なんと昭和61年のことであり、それまでは救急業務の対象外

としていた消防署や、なんでも OK と頑張っていた消防署が全国まちまちでした。ちなみに岡谷消防署は、話したとおり立派な救急車をご寄贈いただいていたので、困ったらなんでも OK いつでもどこでも駆けつけます。のスタンスでした。何度も言いますが、これもひとえに岡谷ロータリークラブの社会奉仕事業の賜物であり感謝の念にたえません。さすがに、市としても 3 台目以降は公費で対応するのが当たり前と、救急車の整備を行ないますが、岡谷消防署救急隊を早くからきちんとした活動が行なえる組織となったことは、今でも私たち(岡谷消防署出身者)の大きな自負であり、心の支えとなっています。

まだまだ、救急業務の紆余曲折の歴史については、沢山お話したいことはありますが、もしご縁があれば、また別の機会としたいと思います。

岡谷ロータリークラブと岡谷消防署と題して、皆様からいただいたご厚意に改めてお礼を申し上げたかったために、お話をさせていただきました。ありがとうございました。



## ニコニコボックス

今井康善・牛山幸一・太田博久・小口 隆・小口泰史・上條英雄・北澤洋之介・小山 智・佐伯克己・薩摩 健・佐藤有司・瀬戸雅三・高木昭好・中嶋孝一・林 尚孝・林 裕彦・林 靖高・宮坂晃介・宮坂宥洪・矢島 進・矢島 實・山崎典夫 岡谷消防署 署長大下様、ようこそお越しくございました。本日は卓話をよろしく願います。

## 出席報告

会員数 41 名、出席者 25 名、出席率 65.79%、前々回訂正 79.49%

2016~2017 年度 RI テーマ  
人類に奉仕するロータリー  
ROTARY SERVING HUMANITY

